



# YONEYAMA KANSAI



# 30 ローター 米山奨学生 学友会 [関西]

ROTARY YONEYAMA SCHOLARSHIP  
ALUMNI ASSOCIATION 30 (2014)

# 米山学友大集合

場所：大阪国際交流センター2F さくら  
日付：2013年7月7日 15:30～18:30 開催



## ◆2013年度総会◆ 今年度総会のテーマ：「米山学友大集合」

昨今の景気不況により米山奨学生も2004年度まで毎年1000名から今年度700名の数になりました。この現状を世界米山学友にお伝えして、私達学友が一致団結して、この米山記念奨学金事業に何かお手伝いできないかと考えたから、ご賛同で海外から韓国、台湾、中国、タイ、そして日本国内から2570地区、2620地区、2640地区、2650地区、2690地区、2760地区と当2660地区など各学友会の協力応援参加で、盛大な総会になりました。実行委員達の綿密な事前準備もあり、無事に開催することができ、ありがとうございました。

◇「米山学友大集合」◇海外から出席学友紹介

- 韓国学友会：全 炳台 (JEON BYONG TAE) 1979年～1983年受領、世話クラブ仙台北RC  
現在韓国建国大学総長であり、3650地区セソウルロータリークラブ会長兼ガバナー補佐
- 台湾学友会：陳 怡潔 (チン イ チェ) 1993年～1995年受領、世話クラブ埼玉川越RC  
川島尚子 (カワシマ ナオコ) 台湾学友会独自の奨学金制度により奨学生  
現台湾国立台北教育大学就学中
- 中国学友会：葛 太紅 (カツ タイコウ) 2004年～2006年受領、京都大学大学院法学研究科卒  
現在天豪法律事務所 日本企業担当弁護士
- タイ学友会：会長 Waichit Khurewattanukul (ウイットクラワッタナクル)  
1987年～1988年受領世話クラブ東京浅草RC  
現：Sania (Thailand) CO., Ltd. (Automobile Press part) 会社経営。  
学友 Wasin Techachainran (ワシン ティシャシャイニラン)  
2011年～2012年受領世話クラブ東京清瀬口RC  
RICHIN TRAVEL SERVICE (THAILAND) に勤務、ツアーコンダクター

◆2013年度総会様子 <https://www.facebook.com/yoneyama2660> にご確認。

## CONTENTS

あいさつ.....	05
奨学生スピーチ.....	10
年間行事報告.....	20
募集要項・編集後記.....	28
役員からの一言.....	29



## Did you know? 米山学友会の豆知識

About Yoneyama Scholarship Alumni Association

### 学友会とは？

本会は、元・現米山奨学生間の交流を通じて、親睦および互助を促進すると共に、国際親善・世界の平和に寄与することを目的とする非営利組織です。

### イベントなどの最新情報を提供

本会は、ホームページやFacebook等による運営を行っております。また、メーリングリストによる一斉送信も行っております。皆さまのご登録、心からお待ちしております。

Website: <http://yoneyama2660.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/yoneyama2660>

Email: [yoneyama2660@gmail.com](mailto:yoneyama2660@gmail.com)

### 学友会の会員になる方法

関西に在住の元米山奨学生(OB、OG)現役奨学生の方々は全員が本会の正会員、準会員とする。関西近辺にいる学友の皆さま、是非一緒に本会の活動にご協力、ご参加をお願い致します。

### 会費は必要ですか？

年会費は2012年度より廃止されました。  
※但し、活動参加費のみ徴収しております。

### 学友の活動とは？

異文化理解から語学力発揮、ボランティア活動から地道なお手伝いまで、学友たちが力になれるところで、今までの恩に感謝する気持ちを込めて貢献しております。

# あいさつ

## 学友会より

---

何玉翠会長 ..... 05

米山学友会の原動力『感謝』  
奈良教育大学養護課程

## 米山奨学委員会より

---

西谷雅之委員長 ..... 06

I can I will

近藤菜穂子副委員長 ..... 07

米山奨学委員会副委員長からのことば

## カウンセラーより

---

佐藤俊一 ..... 08

元米山奨学生カウンセラー  
関西学友会の盛況を祝して

## 学友より

---

趙柏飛 ..... 09

セミテクノ株式会社 代表取締役  
セミテクノ株式会社 代表取締役  
元奨学生とロータリークラブ

# 奨学生スピーチ

## 2013-2014 年度奨学生

---

朴喜静 ..... 10

日本に来て得られた成果

アリフ・ザイニ ..... 11

親とは

サバルワーラ・  
ラワアーニャ ..... 12

自己発見と自信への旅

陳思暢 ..... 13

寛容 — 私が伝えたい思

金東右 ..... 14

学びはソトにある

李相儒 ..... 15

自己発見!! 自分が成長したと感ずること

朴海ミン ..... 16

米山奨学生、大学生、外国人としての自分

鄭鐘恩 ..... 17

米山奨学生としての私の成長

沈孟穎 ..... 18

来日して台湾と違うな、と思ったこと

陳瑋文 ..... 19

感謝の気持ち

# 年間行事報告

## 報告書類

2012 年度決算書	20
2013 年度予算案	20
2013 年度行事	21

## 2013 年度行事報告

2013 ネパール紀行	22
-------------	----

## 2013 年度行事写真

行事代表写真	26
--------	----

募集要項	28
------	----

編集後記	28
------	----

役員からの一言	29
---------	----



## 米山学友会の原動力『感謝』

奈良教育大学養護課程

元世話クラブ：奈良 RC  
1987～1989 年受領

1984 年日本はどう言う処？と疑問を持ちながら大阪にきました。夢があつてきたのでもなく、ただ海外へいったらなにが有ると言う簡単な発想でした。当時観光ビザの発行もなく、留学ビザはまさに難しい、細やかな問題でも簡単にネットで調べることもできない、唯一の方法は親戚、友人、先輩達のアドバイスで四苦八苦して解決方法を探るしかない時代でした。その時から分かったのは、『人』との関わりがいかに大事かということです。米山奨学金も当時学校の推薦ではなく、先輩たちからのアドバイス、そしてロータリアンの紹介推薦で合格した私でした。

米山奨学生は毎月奨学金が貰えます。当時にしたらかんりの大金です。為替相場は 200 円以上の時代なのでいうまでもなく大喜びでした。でも毎月ホテルの例会場へ行って例会に参加するのは苦手でした。敷居が高いホテル、会員数 100 名以上の中、リクルートスーツもなく、毎回嫌でした。カウンセラー以外、誰にも打ち解けることができませんでした。

勿論学友会の存在も知りませんでした。近年学友会の活動に参加することにつれ、現在の奨学生たちが羨ましいです。たくさんの人に支えられていること、学友の先輩たちが一所懸命自分の経験談を伝えていること。私が嫌々なところは今ではこの奨学金制度の良い所です。当時事前に説明が

あれば、気持ちも違っていたでしょう。しかし厭な事は却つていまは鮮明な印象残っています。結果はよかったです。そして米山学友会がなければ、卒業後仕事で忙しい日々を送っていた私が世話クラブとの連絡、交流や、米山学友の皆さんとの再会もなかったでしょう！今になって学友会の存在は非常に大きな意味があると実感しています。

2013 年度米山奨学生学友（関西）会長の重役にさせて頂き、米山学友会総会のテーマを『米山学友大集合』で開催いたしました。今まで触れ合いできなかった多くの人との出会いがありました。本当に学友一人一人の力に支えられての米山大集合で盛会でした。米山奨学金制度に対して私達の『感謝な気持ち』がここで集結して、米山学友会の活動原動力となっています。

海外米山学友会も台湾・韓国・中国・タイ・ネパールに続いてモンゴルも設立されました。私達は共通な話題があり、共感することはもっとたくさんあると思います。どこかで初対面に出合っても親しくなれる気がします。そして、国際ロータリーの理想である国際平和、社会奉仕はロータリークラブの活動を通して、日本で学んだ文化、習慣などを更に理解し、社会参加と社会貢献の意識を持ちながら実現、努力することを期待します。

# I can I will



国際ロータリー第 2660 地区  
2013-2014 年度米山奨学委員長  
西谷 雅之 (大阪城南RC)

よく「将来恩返しをしたい」と言う言葉を耳にしますが、皆さんが本当の意味での「恩返し」が出来る様になるにはまだまだ 10 年・20 年という時間が必要だと思えます。そして、返す相手は我々ではありません。4 月に行われた次年度の為の地区協議会において元会長の林 小微さんが「受けた恩は下の世代に返すものだ」と教わった」と、偶然にも私が普段言っている事と全く同じ事を言われました。

これは母校のバスケ部 OB 会の伝統でもあります。先輩から受けた恩を先輩に返したらキャッチボールはそれで終わってしまいます。後輩として受けた恩を自分が先輩という立場になった時、後輩の世話をする事で返す。そうやって下の世代にパスしていくことで常に先輩は後輩の面倒を見ようという流れが出来上がります。

しかし、そうは言っても今お世話になったロータリアンに何かしたい、その気持ちが米山感謝祭と言う形で現わされたのだらうと思えます。先日 2 回目の米山感謝祭が盛大に催されました。学友会・終了したばかりの奨学生、そして現役奨学生の皆さんが力を合わせて感謝祭を盛り上げて頂き、参加されたロータリアンの方々は大変喜ばれた事と思えます。本部や他地区からも見学に来られ、この様な会を開催できる当地区の学友会を誇りに思えます。

I can I will ~今自分に出来る事をしよう。この精神もずっと持ち続けていただきたいものであります。そしていつか誰かの役に立つ人間になっていただきたい。皆さんの未来に幸多からん事を、Spirit of Yoneyama, forever

# 米山奨学委員会 副委員長 からのことば



大阪ネクストRC

この度は、無事に米山奨学生を終了され新たに学友会に入会されたことを心より嬉しく感じております。在籍された一年間、又は二年間で多くのロータリアンとの出会い、気づき、経験や感動などを味わうことができたことは、きっと他では得ることはできないものだったと私は思います。

実は、そのような貴重な経験を経て、学友会で活躍されることを心より待っておりました。ロータリアンとの心の絆をさらに深くして、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献することを一緒に実現していきたいと思えます。

皆様が広い視野を持ち、大きな視点で未来への夢へ飛躍されることを心より祈念申し上げます。



佐藤 俊一  
(大阪鶴見RC)

元米山奨学生 黄 詠翔  
(世話クラブ：大阪鶴見RC)

## 関西学友会の盛況を祝して

私の所属する大阪鶴見ロータリークラブは今年で30周年を迎えました。

その間クラブとして11人の米山奨学生を世話してきました。幸いすべてトラブルなく終了していますが、その後の彼らとの接触が少ないのが残念です。30周年の記念式典に過去お世話した米山奨学生、青少年交換学生、財団親善奨学生などにも招待状を出して再会できればと考えています。いずれのプログラムでもロータリー家族としてクラブの世話を離れた後のお付き合いが非常に大切だとおもっています。

私は3年前、写真にある黄君のカウンセラーとして米山の地区行事に出席し、またカウンセラーの任期終了後も、学友会主催の一泊旅行や忘年会、感謝祭などの行事に参加し、多くの若い人たちと一緒に楽しむことができました。お世話役が参加者にいかに楽しんでもらうか開催までにいろんな工夫と準備をいただいていることに感謝しています。またこのような機会を通して地区米山委員会の人たちとも親しくさせていただき「準学友メンバー」のような気持ちでいます。

このような関西米山学友会の発展には林さんはじめ多くの先輩の努力とホー会長のリーダーシップ

のもと現在の執行部のまとまりがあり、また地区米山奨学委員会の皆さんのバックアップあっての事とおもいます。

私は地区の財団プログラムに15年以上も関わってきましたが、財団学友会の現状をみるにつけ、米山学友の最近の活況はうらやましくさえ感じます。

このような盛り上がりのひとつの理由はフェイスブックを通じて日常的に互いの顔と名前がわかり、時折の行事に参加していても違和感がないこともあります。私は一年足らずのカウンセラーでありましたが、その後いろんな行事に声をかけていただき自由に参加できるのも魅力的です。おまけにこの原稿の依頼までできました。

米山奨学生とロータリアンがせっかくのご縁で知り合いになったのをずっと長く継続していく機会としてこの学友会活動は重要な意味があるとおもいます。

関西米山学友会の活動が刺激となって他の学友組織の活性化の模範になってもらう事を期待しています。



セミテック株式会社  
代表取締役 趙 柏飛  
2004～2006年受領  
元世話クラブ：大東中央RC

## 元奨学生とロータリークラブ

日本留学、そしてロータリークラブの奨学生として、多くの方のご支援を受けた学生生活を終え、改めて社会へ出た私は、日中間のビジネスとして、学生時代に交流のあった日本の方の勧めから、半導体分野での仕事をすることになりました。

しかし、当時の私はこの分野への知識はなく、半導体と言えばラジオみたいなものだとの認識だったため、苦労が続くことになりました。

営業に行くときも、訪問先の会社もわからず、自分で調べ、電話を掛け、断られてもどうしても半導体工場に入りたいと、何回も訪問しては工場を外から眺めることもありました。暫くして、工場のロビーに案内されましたが、日本、アメリカ、台湾など他の国や会社の営業マン達が商談をしているのを見て、そのように話題の中に入れていけない自分を責めることもありました。

毎日訪問先にいっても、知り合いもなく、用もなくいるだけという苦しい時間が過ぎ、エンジニアさん一人と会うために、真冬の中何時間も外で待ったこともありました。そうして、製品販売の見込みもつかないまま、1年が過ぎ、営業やビジネスの意欲だけでは進まない厳しい壁に立ち止っていた時、奨学生時代の大東中央ロータリークラブの会員であった、峠松次 社長とお話する機会があり、その中でこれまでの経験で得た様々なアドバイスを頂きました。

その後も、一番苦しい時期に親身に相談にのって頂き、無私の心で資金的に厳しいときは資金援助での応援をしてもよいとお話も頂き、それを聞いただけで私の気持ちは軽くなり、おかげさまで、今日まで峠様の資金的援助というお手を煩わすことなく、事業を継続することができ、御恩と感謝の気持ちで一杯です。

今日では、会社設立からもうすぐ6年目となり、特に中国上海地域の半導体会社では私の会社はそれなりの知名度を持つようになったと自負しております。また、最近では日本のお客様からの中国の物品輸入の話も増えておりますが、今でも、中国と日本の品質に関する考え方の違いは感じられ、日本側がNGと答えても中国側は問題ないと考えている例を、検品作業に立ち会い何度も経験しています。このような相互の認識の隔たりを埋めることで、日本・中国双方の利益になるよう活動しています。

最後となりますが、私と峠様との関係は、たまたま結びつきが強くなった一例かもしれませんが、無私・奉仕の精神を体現しておられるロータリークラブの皆様に出会えたからこそ、このような経験をできたのだと思っております。卒業後も私を支えてくださった多くの会員の皆様、そして、このような経験をされる根本となった、ロータリークラブ活動、およびこれを支える全ての皆様に、元奨学生としてこの場をお借りして、改めてお礼と感謝の気持ちを伝えたいと思います。

2014年1月28日上海より

# 日本に来て 得られた成果

大阪大学  
人間科学研究科 社会心理学専攻  
**朴喜静（韓国）**  
世話クラブ：大阪RC



現在、大阪大学人間科学研究科で社会心理学を専攻している朴喜静と申します。研究テーマとしては、嘘をつくときに表われる非言語行動について研究しております。

韓国から日本に来てもう3年になりました。住み慣れたところから離れることは私にとって大きな挑戦でした。最初は日本語に自信がなくて聞き取れなかったらどうしようと悩みや不安がストレスになりました。しかし、それより自分に対する自信がないことが最も大きかったことが気づきました。「頑張っただけで来た以上は自信をもって前に進もう」と決心しました。このような自分の考えを変えることが心の壁を乗り越えられる力になりました。留学生活は決して楽しいことばかりではありませんでした。しかし、留学生活を楽しく、意味のある時間を過ごせるかはすべて自分次第だと思います。

自分から積極的に心を開いてまず一步を踏み出すこと、それが重なる前に進む力になると思います。このような力を基にして留学の生活で得られたものは数えられないほどたくさんあります。学問的な側面では、研究の範囲を広げることができたと思います。多くの欺瞞研究は欧米を中心に行っており、アジア人を対象にした研究はまだ進んでいない現状です。

特に、日本と韓国は東洋文化圏であり、類似する部分がたくさんあります。このような状況で日本人を対象にした欺

瞞研究は嘘をつくときにアジア人がどのような行動をするかを知られる貴重な資料になると考えられます。

また日本は否定的な表情や行動を表に出さないようにするため、日本人の行動や意図を読み取ることは極めて難しいです。したがって、顔面表情や身振り手振りなど非言語行動を読み取る方法や測定が発展してきたと思います。

日本の巧みな非言語行動の測定方法は、研究の信頼性を高めることとなり、今後捜査場面などへの適応可能性がよりいっそう高まることにもつながると思います。また生活の部分では、米山奨学生になって経済的な部分だけでなく、日本文化の体験やいろいろな行事の参加を通してロータリーの奉仕精神を深く学ぶことができました。

出会いに恵まれた3年間の留学生活は終わりますが、経験するすべてのことは私の人生の貴重な財産になると思います。将来日本で学んだことや多くの方々にもらった愛情を韓国に伝えられるように頑張りたいと思います。

# 親とは

大阪大学  
知能・機能創成工学専攻  
**アリフ・ザイニ（マレーシア）**  
世話クラブ：大阪城東RC



私のお題は「親とは」です。すでに親になっている方々にはこれからのスピーチは当たり前のことかもしれませんが、私は独身で子供がいません。しかし兄の5歳の甥っ子和2歳の姪っ子を通して親になる気持ちを実感することができ、親は社会においてどういう役目を持っているのかを学ぶことができました。この経験を皆様に共有したいと思っています。

私が親になった気持ちを初めて実感できたのは約5年前、私が学部4年生、22歳のときでした。そのときまでは私は自分のことしか考えたことありませんでした。もちろん電車で席を譲ったり、重いものを運んでいる人を手伝うなど、やって当たり前のことではやっていましたが、人生に関しては自分の人生しか考えたことがなかったのです。

その年、兄の奥さんが第一子を生みました。男の子で、名前はレザです。親戚に子供ができて、早く会って遊びたいなというすごく単純な気持ちがわきました。1年弱後、一時的に実家に帰る機会があり、その子と初めて会えました。

兄がレザ君を抱っこしていて、私がレザ君の頬を撫でようとしたら、このような小さな手が伸びてきて、私の人差し指を握りました。まさに映画によくある感動的なワンシーンで、私は正直に感動のあまり泣きそうでした。自分の子じゃないのに何でこんなに感情的になっているんだろうと不思議に思いました。そのとき、世界の父親が初めて自分の赤ちゃんを抱くときに何を感じるか、何を思うかを実感できたような気がしました。「この子は俺と血がつながっている、立派な大人になるまで一生懸命育ててやる、守ってやる、この子のためなら命あげてもいい」

というすごく前向きな気持ちでした。

帰省中、レザ君と遊びながらいろいろ父親としての責任について考えていました。本当に縁起でもない話ですが、例えば交通事故で私とレザ君以外、家族みんなが死んでしまったとしたら、その子には私以外誰もいません。やはり兄の子なので、家族の無条件の愛を与えてあげたいという気持ちもありますし、何か責任を感じて後見人になり自分の子として自分で育てたいと思います。そしてちょうどレザ君も私に懐いてきて、私を信頼しているようでした。その信頼関係を壊したくないので児童養護施設に預けたくないのですが、私はただの一人の学生ですし、まだ働いていません。どうやって二人の生活費を手に入れるのか？そしてそのうち就職もするし、通勤中だれがレザ君の面倒を見てくれるのか？今までの気楽な学生生活では自分だけを考えればよかったのですが、これからはレザ君の人生を優先しなければなりません。はたして私にそのようなことが本当にできるのか？また、児童養護施設のほうが子育てのプロの方々がいるのもしかしてそこに預けることがレザ君にとっての最善の選択肢なのかかもしれないと急にとても不安になりました。このとき世界中の父親は最初の喜びや前向きな気持ちになると同時に、子育ての責任の重大さに気付き、みんな急に不安になるのだろうかと思っていました。もちろんこれは全部妄想の中の話で、レザ君は今元気にすくすくと育っています。

親とは、自分の子供に様々な期待を持っているものだと思います。私はひそかにレザ君にベッカムのような次世代のサッカーのスター選手になってほしかったのですが、今5歳になってもボール遊びをやっている

きに全く蹴ろうとはしないのでベッカムはあきらめています。ですが、ベッカムにならなくても、誰かの未来に良い影響を与えるような人生、自分が存在したことによって社会がより良いところになったという証拠が残るような人生を送ってほしいです。松下幸之助やスティーブ・ジョブズのように革命を起こす影響までは期待していませんが、レザ君が65歳のおじいさんになったときに私は社会と未来にたくさん貢献をしましたと胸を張って言えるようになってほしいです。

その前に、もちろん私はレザ君にとってよいお手本にならなければいけません。現在、私は風力発電機を改良する研究に取り組んでいます。環境にやさしいことで注目されているこの風力発電の研究に今後取り組み、企業や大学で風力発電の普及に尽力することで、社会に貢献し未来をよりよいものにしたいと考えています。

甥っ子に会い、それをきっかけに色々考えた結果、私は親と子供の違いを学ぶことが出来ました。それは社会における役目の違いです。子供は自分の人生を生き、一生懸命に育つことがその役目です。一方「親とは」新しい世代である子供が生きる手を助け、彼らが一生懸命に育つことができる良い環境を作り上げることがその役目です。自分の人生だけを考えていた子供の私がこの経験を経て、大人、そして親へ成長する入り口に立てた事が、私が成長したと感じたことです。



優秀賞  
自己発見と  
自信への旅

大阪大学  
生命機能研究専攻  
サバルワラ・ラワーニャ(インド)  
世話クラブ：千里RC



最優秀賞  
寛容 —  
私が伝えたい思

大阪ハイテクノロジー専門学校  
日本語専攻  
陳思暢(中国)  
世話クラブ：守口イブニングRC

私の考える自己発見は、「自分の知らない自分との出会い」だと思います。

インドで修士課程を終え、免疫の研究をするため、この分野で世界的に有名な大阪大学に進学することを決めました。家族や友人と別れ、新しい環境に飛び込むことで、新しい自分が発見できるような気がしたからです。

私の所属する研究室で、多くの新しいテクニックや免疫学の基礎を勉強しています。また、定期的な論文抄読会での発表とディスカッションを通して、日本語も上達しています。さらに、自分の実験データに対する自信も出てきました。とても前向きな自分が見えています。

研究室仲間とお好み焼きを食べに行ったとき、目の前の鉄板で、自分でコテを使って焼き、そのコテで熱々のまま食べる方法にはとても驚きました。とても美味しかったし、楽しい食事でした。ですが、やはり手で食べるのが、私には、一番おいしく料理を食べる方法だと思います。みなさんも、だまされたと思って一度、試してください。でも、お好み焼きは、熱すぎて無理かもしれません。日本の料理や食事マナーにも発見がいっぱいあり、とても楽しいです。

今、私はロータリー米山奨学金をいただくことができ、アルバイトをしなくても、経済的に困窮することなく、さらに時間的にも余裕ができました。そのため、さきほど話した、お好み焼きのできごとや、有名な研究者たちと交流をもつことができ、さらなる研究に対する意欲や自信がでてきています。「自分の知らない自分との出会い」のためには、この奨学金はとても必要で大切です、とても感謝しています。

さらに、ロータリーは、私とは違う分野の人達と出会う機会を与えてくださいます。ここでの毎月のミーティングでは、さまざまな事業や研究を聴くことができ、私自身、研究に対する情熱や興味がさらにパワーアップします。私の自信が強くなっていくためには、とても貴重な経験であります。そして、今まで考えもしなかった、奉仕精神を学ぶこともできました。

短けれど充実した一年半を振り返ると、故郷のインドから離れて、日本でひとり暮らしをし、自分の時間と研究の生活を両立させてきました。さらに免疫の研究の新しい側面を知るたびに、私は積極的に挑戦し、すこしずつですが「自分の知らない自分との出会い」を発見し、それを自信にしてさらに成長していこうと思う強い自分があります。このことは、私を支えてくれている研究室の仲間やロータリーの方々のおかげです。とてもありがたくうれしく思います。

このすばらしい機会をすべて自分の力にして、将来、私は日本とインドの共同研究室を作ろうと思っています。研究の発展に力をつくし、研究者の交流のかけ橋となり、単なる知識の返還ばかりではなく、文化や歴史、社会など、いろいろの認識を深めて、友好と平和を求めていくことができればと考えています。このことは、ロータリーで学んだ、奉仕精神ではないかと思えます。

大きな夢に向かって、ロータリーの皆様の力をお借りしながら、頑張っていきたいと思えます。

「世界で一番広いのは海だ。海より広いのは空だ。空より広いのは人の心だ。」これは 1800 年代のフランスの作家ユーゴーの有名な言葉です。これは私が子供のころに教えてもらった言葉ですが、この言葉の本当の意味がわかったのは日本に留学してからです。

私は陳思暢と申します。去年の 10 月に中国の内モンゴルから参りました。現在、大阪ハイテクノロジー専門学校で日本語を勉強しています。今年の 8 月に約 1 年ぶりに帰国した時、友達や親に「あんた変わったな、以前のあんたに戻ってよ。」と冗談を言われました。確かにこの 1 年で私は変わったと思います。以前の私はのんびりして、何も事ゆくりだし、他の人のこともあまり気になりませんでした。その上、要領もよくありませんでした。子供のころは学校の先生から「陳、早く宿題を出しなさい。友達に遅れないで、さっさとしなさい」と言われました。日本に来たばかりのころ、私は自分勝手な人間だったと思います。何事も自分のペースで、思うように行かなかったら、許せませんでした。それで、友達はもちろん、先輩にまで悪い態度をとったことがあります。でも、友達や先輩が私がよくない態度をとっても、怒らずに許してくれて、いろいろと手伝ってくれました。先生に対してもとても失礼な態度をとったこともあります。たとえば、宿題忘れたり、約束の時間に遅れたりしました。信じられないことに、大切な日本語能力試験の申し込みを忘れたこともあります。日本では、いつも時間厳守です。ですから、本当なら先生に厳しく怒られ、呆れられても仕方がないと思いますが、不思議なことに何度も注意はされましたが、ほとんど怒られたことはありません。

先生はいつもと変わらない態度で接してくださいました。今、振り返ると「あ、こういう優しい人たちに出会えたことが自分を変えるきっかけになったんだなあ」と思っています。

私は今、守口イブニングクラブでお世話になっています。最初のころは日本語がとても下手で、例会ではいつも「私の日本語は皆さんに通じるだろうか」、「いらいらされていないだろうか」と不安でしたが、クラブの皆さんはいつも温かく優しく私が話せるようになるのを待ってくださいました。私も皆さんに励まされて、自分ももっと日本語が上手になって、いろいろな話をしたいと思うようになりました。いろいろな人から励まされ、見守っていただいたおかげで、今、私は日本語だけでなく、何でも頑張ればできるという自信が出てきました。私はこのロータリーの活動を通じて学んだ「思いやり」という言葉が大好きです。いつも思いやりの気持ちを大切にしてきました。これは他の言葉で言うと「寛容な心を持つこと」と思えます。相手の立場に立って相手の気持ちを考えることです。そうすれば、理解できるようになります。

私は最近聖書を読んでいます。聖書で「噂をしなれば、噂をされない。罰を与えなければ、罰を下されない。寛容の心を持てば、寛容を得る」という言葉があります。私は今まで皆さんに寛容にもらったことが何回も何回もあります。本当にありがたいと思うので、これから、皆さんにいただいたこの寛容の心を持って、人に接して行きたいと思えます。

# 学びはソトにある

近畿大学  
総合社会学専攻  
**金東右（韓国）**  
世話クラブ：東大阪東RC

こんにちは、今年初めてコンテストに参加します金東右と申します。これから自己紹介を兼ねて、私が色々な地域で得られた学びについて、ストーリーテリングして参りたいと思います。

1991年、私は韓国ソウルの中心で生まれました。幼かったころは何も分からず、数々のビルが建てられてるのを、無関心のように見ながら育ちました。今は、久しぶりに実家に帰ると、近代的な街並みにふと気づかれ、驚くばかりです。私の家族は4人家族で、父は検察の一般公務員です。私の幼い頃から中学時代までは、それほど足りないことも、過ぎることもなく、順調に流れていきました。

しかし、人生の転換ポイントは、いきなりやってくるものです。中学2年を経て15歳の時、私は突然フィリピンに留学することになります。民間団体での奉仕活動と語学研修が、留学の主な内容でした。1年間、フィリピンのプエルト・ガルセラという、小さな島に居ました。そこで、島の先住民たちに、服や食べ物を支給するお世話をしたり、毎日英語の学習を重ねたりしながら、1年を過ごしました。帰りの日、韓国の空港で迎えに来てくれた母が見えました。しかし、真っ黒でフィリピン人そっくりな姿の私に、母は気がづかず、通り過ぎたことは、忘れぬ一つの思い出です。韓国に帰国後、高校2年の時です。初めて「ひらがな」が黒板に書かれていきます。周りを見ると、みんな寝ています。だが、なぜか眠くありませんでした。先生が書いていた「あ」から「ん」までの「ひらがな」を一字ずつ目にしました。すると、突然ワクワクしてきました。言葉にできない感情に体が揺さぶります。新しい世界に一步、踏み出したような感覚でした。ハングルにはない、ぐにゃぐにゃした感じの、自由さがたっぴり感じられる、字の形態だと思いました。すぐに私の目的ができました。この日本語が通用する

社会で暮らし、日本語を使って日本人と会話してみたい。更にできれば、日本の大学に進学したいと。

2010年01月、神戸YMCA日本語学校で、私の日本留学が始まりました。日本の大学にたどり着くまでの準備と挑戦の一年でした。国公立3校と、私立の近畿大学を受けました。しかし、思い通りに行かず、国公立大学がすべて落ちたり、受験の時に大震災に遭うなどの辛い経験をしました。それでも、再び立ち上がったのは、私に日本と関わりたいという目的があったからです。その目的こそが、私を今に至るまで導いてくれていると信じます。

もう大学3年生が終わろうとしています。念願した日本の大学もすっかり馴染んで、卒業を1年前にしています。その中、大学の元フジテレビ・プロデューサーのある教授から、次のような言葉を聞きました。

「大学は、あなた方に何も教えられない、ただし、ヒントなら提供できる。無数のヒントを持って外へ行くのさ。大学はベースキャンプだと思って、とにかく現場へ行くんだよ」15歳で学んだ外国生活と語学能力、高校時代から日本に来るまでのたくさんの出来事、その全てが、次から次へとつながっています。

成長のきっかけになるヒントは、意外と近くにあるのです。私の場合は、みんなが寝ていた高校2年のときの日本語授業がそうでした。最も重要なのは、ヒントをきっかけにソトへ行くことです。ソトには、思いがけない学びがあるはずなんです。

卒業してからは、大学4年で学んだ中国語やスペイン語をもっと活用するために、第2の留学を予定しています。ぶれない目的の芯をもつこと、自分と様々な場所をふれ合わせることで、生まれる成長を目指していこうと思います。以上です、ご清聴ありがとうございました。

# 自己発見!! 自分が成長した と感ずること

大阪大学薬学研究科  
分子薬科学専攻  
**李相儒（中国）**  
世話クラブ：豊中RC

皆さん、こんにちは。今日の第一名の発表者として光栄だと感じています。それでは、「私が成長したと感じたこと」について発表したいと思います。よろしくお願致します。私は中国の遼寧省瀋陽市から参りました李相儒と申します。日本に来て、ちょうど5年になります。現在は大阪大学薬学研究科の博士課程の3年生であり、来年3月に卒業する予定です。この長い5年間を振り返ると、本当にいろいろな面で成長したと感ずています。

成長と言えば、他人の欠点を見るよりも、良い所を探して褒めることができるようになったこと、何かうまくいかない時は自分の責任だと思えるようになったこと、嫌なことがあっても他人のせいにならないで、なぜそうなったのか客観的に分析して、落ち込まずに次回に改善するために努めるようになったことは、成長したことと思います。このような成長は時間の流れで自然になったと、確かに私はそう感じていますが、留学生として、この場で特に日本に留学して来てから成長したと感じた三点について発表したいと思います。

日本に留学する一番の目的はもちろん知識の勉強だと考えます。これまでの5年間を通じて、私の専門知識および研究能力が飛躍的に成長したと感ずています。日本に来る前は、ただの薬学部の学部生として、教科書レベルの知識しか知らなくて、革新的な知識は遥かに足りませんでした。日本に来て、研究室に入って、先端的な技術を学びはじめてから、どんどん研究能力が上がっ

てきたと気づきました。それに、いろいろな実験手技だけではなく、自分で研究計画を立てられるようになりました。努力することにより、国内および国外のたくさんの学会で研究成果を発表し、論文も学術雑誌に掲載することができました。現在は後輩に実験指導をする能力も身につけ、研究室の皆さんに認められるようになりました。研究の領域では今の私はまだ雛鳥のような存在ですが、でも私が成長したと誇らしげに皆に言うことができます。

次に独立への能力が身に付いたと感ずています。中国は日本と違って、子供が生まれてから、両親およびおじいさん、おばあさんに恵まれて、何をやるにも、何を食べるにも子供の思いどおりにやらせてくれます。まるで皇帝のようです。私が大学に入ったときも、地元なので、荷物の整理や、洗濯も両親がやってくれました。家でも同様で、料理を作るのはともかく、キッチンにすら入ったことはありませんでした。逆にこのせいで、中国の子供があまり独立する能力を身に付けていません。しかし、私は日本に留学してから、一人になって、料理、洗濯、ものの修理など、何でも自分でやらなければなりません。それこそ、何でもできるようになって、独立して生活してきました。自分自身の面倒をみる以外に、新しく日本に留学して来た後輩にも生活面の面倒をみることもでき、いろいろな情報を教えてあげて、まるで日本通のようだと感ずています。もうひとつ成長したと感ずることは視野が広がったことです。日本に留学する前に、

小学校から大学まで地元で通学してましたので、旅行以外には、他の町で生活したことはありません。外はどのような世界なのか、テレビで見るぐらいの知識しかありませんでした。私にとって、初めて家を出る経験は日本留学です。経済、政治、国民の素質など発展した日本をこの目で見て、感動させてもらったことは数え切れません。ここで、中国の清の時代の閉鎖鎖国という策を思い出しました。その時の政府は外国との一切の貿易を禁止し、庶民にも外の世界に関する情報も知らせませんでした。その結果、人の世界観や価値観は成長できなくなって、国の発展も自然と遅れました。先進国の物事に接触することは、自分にとっても国にとっても、百利あって一害なしと思っています。私は日本に来て、整然とした秩序や、人々の道徳や、環境の綺麗さなどすべてを感ずて、今後は中国に帰って、母国のために絶対何かをしようかと思っています。

光陰矢の如し。留学の5年間、年齢だけではなく、知識の成長、知性の成長、責任感の成長を感ずています。留学生活が始まった頃には、迷ったこともあり、泣いたこともありましたが、現在は違います。私は成長しました。他人を愛することができ、他人を理解することができ、物事を思考することができ、独立した生活ができるようになりました。この5年間の経験は一生の宝だと信じています。

以上でわたくしの発表をおわります。ご清聴ありがとうございました。

# 米山奨学生、 大学生、外国人 としての自分

大阪教育大学  
人間科学学部  
朴海ミン (韓国)  
世話クラブ: 四條畷 RC



日本に来た最初のごろは慣れない環境の中での生活だった。何よりも日本の生活に慣れることを目標として生活を送っていた。その当時は何でも不安で自分が出来ることはないというような考え方も持っていた。どこへ行ってもコミュニケーションがよく取れなかったため、人と話すことが嫌だと思ってしまうくらい慣れない生活であった。ところが、日本に来て5年になった今は自国にいる時より楽だと感じることもある。それくらい日本での生活が慣れてきて、大学での生活も勉強も大変だが少しずつ楽しく感じるようになってきた。また、それ以外の生活面でも日本での生活が楽しくなってきた。具体的にそれを感じる時は例えば、病院や買い物に行った時にコミュニケーションが不自由なく取れることである。母国語ではない言語で自分の意思を表現することが最初は非常に難しかったが、今は間違っても話すことが重要だということを感じさせられ自分が成長したというふうに思う。

大学3年生になった今、自分の専攻である生涯教育についてさらに研究を進めている。その中、ゼミでみんなと議論しながら、自分の考え方を日本語で表現する機会が増えた。最初は日本語で専門的なことを話し合うことに違和感があったが、今は自分の考えを日本語で話せるようになったので、さらにその時自分が成長したと感じた。大学に入ったばかりの1年生の時にも、日本の大学システムを初めて経験し、周りが全員日本人だった。その中で自分一人だけが外国人だったので大変なことも多くあった。例えば、講義を聞くのにも日本人より何倍努力しなければならなかった。1時間半という時間の間、ずっと日本語の聞いて理解するのは非常に難しかった。さらには教授から何かの答えを当てられると、すぐに答えできなかったのがあった。その時は日本語で話すことすら苦しい時期であったため、自

信がなかった。しかし、現在3年生になった今は間違っても自分の考え方や意思を他人に伝えることが大事だということに気づいた。間違った答えをしても誰一人怒る人はなく、逆にそういうふうな考え方を持っていることをユニックだと言ってくれた。それ以来、ゼミでも課題を書く時でも自分の考え方に自信も持てるようになった。

そして、今年4月に米山奨学生として選ばれたことで日本での生活のずいぶん変わってきた。今まで日本で努力したことが米山奨学生に返ってきたと私は思った。去年までは大学に通いながら勉強もアルバイトもしなければならなかった。ところが、現在もらっている奨学金でアルバイトをせずに、勉強できる時間が増えたので非常に有意義な生活を送っている。これによってさらに大学4年生になっても自分の研究テーマに力を入れようとしている。また、毎月出席するロータリークラブの例会も自分にとって非常に良い経験となっている。様々な方と接し、話を聴くことがこれからの自分の人生を良い方向につなげてくれると思っている。

また、自国にいる時より自分と同じように日本に来て留学している方との出会いが増えた。韓国にいる時は韓国人との出会いしか考えられなかったのが、日本に留学してからアジアはもちろん世界の様々な国から来た方との出会いが増えた。様々な文化の方と接することで異文化を理解するようになり、さらには国際化が進む中でこうやって他国に来て留学している人たちが将来世界に貢献するだろうというふうにも思った。この出会いが数十年後に世界で活躍することを願って大事にしたい。このように現在自分が関わっている人を大切にしなければならないと思う。したがって、これからも大きく成長する自分を期待して現在の生活が有意義であるようにしたいと思う。



# 優秀賞 米山奨学生 としての 私の成長

近畿大学  
情報学専攻  
鄭鐘恩 (韓国)  
世話クラブ: 大阪難波 RC

みなさん、こんにちは！  
人はみな生きていて、自分の人生の方向を決めるとても大事な出会いに巡り会うことがあります。それはある本との出会いや、ある事件との出会いなど人によって異なるかもしれませんが、私にとってそれは米山ロータリーアンの出会いでした。そうです。本日、私は米山ロータリーとの出会いをお話しをしに参りました。米山奨学生になって残りわずか今の今から話せる米山奨学生になってから本日まで巡り会えた方々や新しい貴重な経験を通して 普通の留学生活では味わえなかった、また違う自分、成長した自分についてお話ししたいと思います。私は去年4月に大阪難波ロータリーに入りました。入って一番驚いたことは月1回、例会に出席しなければならないということでした。私が米山奨学生になる前までは、日本留学中にあまり年上の方と交流を深めるきっかけがなく、敬語が苦手である私が例会に行くと失礼なことを言うのではないかと凄く不安な気持ちがあったからでした。そうして不安な気持ちでロータリーの例会に出席するようになりました。でもどうしたことでしょう。例会に出席するにつれ、どんどんロータリーにはまっていく自分がいました。ロータリーの例会やロータリーが主催するイベントが待ち遠しくなりました。私だけでなく、他の留学生の仲間たちもそうだったと思います。最初からロータリーの理念に感銘を受け、米山奨学生になった方はあまりいないのではないかと思います。初めは私のように曖昧な気持ちで例会に行き、そこからどんどん真のロータリーアンになっていったのではと思います。みなさん、なぜだと思いませんか？私はそれこそがロータリーの力だと思えます。私たちを支援してくださっている方々と直接お話し、今まで

の自分にはまったくなかったロータリーアンの方々が追究するロータリーの価値や理念に、胸が打たれたからだと思えます。そうして、私は「青少年指導者養成プログラム」であるライラ、大阪難波ロータリーが主催する献血イベント、提携している韓国と台湾のロータリーとの合同例会の通訳活動などに積極的に参加するようになりました。韓国と台湾のロータリーとの合同例会の通訳活動では、大阪難波ロータリーのWCS事業で、平成23年3月11日に東日本を襲った大震災を教訓にし、必要であろうと考えられるものと社会福祉法人大阪中央区福祉協議会の方々と相談をし、寄贈するイベントでの通訳もさせていただきました。そうして三ヶ国クラブの通訳活動をして中で、たとえば言葉や文化が違ってロータリーの理念により縁を結んで、さらなる奉仕活動を通じて強固な結びつきにしている各国のロータリーアンの姿を目にし、私は胸が熱くなるのを感じました。三姉妹の合同例会が終わった後、例会の間私によくお話してくださった韓国のロータリーアンの方々が挨拶をしに来られました。ロータリーアンの方々は「また留学生生活を終えて韓国に戻れば、ぜひ私たちのロータリーに入って下さい。」と私におっしゃいました。そうして、私は遅くとも米山奨学生になったことを誇らしく思いながら「こちらこそ、お願い致します。」と応えました。米山奨学生になって巡り会えた新しい仲間一横の繋がり、そしてカウンセラーさんをはじめ、ロータリーアンなど素晴らしい諸先輩方と出会ったことは私の人生において大きな宝になっています。そしてまたいつもの例会をはじめ、これから幾度のなく訪れる出会いを大切に縁という形で引き継いでいきたいと思います。私の話は以上となります。ご清聴ありがとうございました。



## 来日して 台湾と違な、 と思ったこと

関西大学  
心理学研究科 / 認知・発達心理学専攻  
**沈孟穎 (台湾)**  
世話クラブ: 大阪中之島 RC

時間が経つのは早いものです。私は約三年前に日本に参りました。来日した理由として、自分の日本語会話能力を上げたいと思ったこと、そして、心理学分野に興味がありましたので、日本の大学で学びたいと思ったからです。何とか関西大学に入学できて、心理学研究科でいろいろと勉強してきました。最初はやはり日本語があまり聞き取れなくて、少し苦労しました。しかし、自分が好きな心理学に関する知識を少しずつ学んで行けるという過程に楽しんでいました。そして、つい最近やっと論文を完成し、卒業見込みとなりました。

日本で留学生として生活している間、時間を作ってあちこち色んなところに遊びに行きました。友達と一緒に遊んだり、美味しい日本料理を味わったりすることがとても幸せだと感じました。本当を言うと、最初日本に着いたとき、景色が台湾とあまり変わらないと感じたので、実はまだ台湾にいるのかなと勘違いするほどでした。しかし、日本で生活体験をしているうちに、だんだんと、「やはりここは日本だな」と深く感じてきました。

例えば、私の学校から出たら、居酒屋とか、バーなどが何軒かあります。夜にちょっと遅く家に帰る時、いつも不思議な光景が目に入ります。それは、学生が何人もいて、皆が円陣を組んで立って話をしている様子でした。後で日本人の友達に聞いてみると、それは、皆が今解散かまたは二次会に行くかを相談しあっているらしいということでした。これは、やはり文化の違いがあるなと思いました。台湾人の場合を考えると、帰ろうとする人がいたら、大体は「じゃ、私はそろそろ」って少し挨拶をして、さっと帰ります。日本人とはその辺が大分違うなと感じました。日本は集団主

義的だと言われるのは、こう言うところからも見えるのではないでしょう。

また、今年は初めて日本の人達がどういうお正月を過ごしているのかも体験出来ました。一月一日のお昼に、お世話になっている北村さんのお家を訪ね、北村さんのご家族の方々と一緒に元日を過ごしました。美味しいお節料理を食べさせて頂いて、とても幸せだと感じました。また、皆さんと近くにある氏神さんの熊野神社に初詣に行きました。やはり新年初詣の参拝は、違う雰囲気を感じました。こんなことも日本と台湾の違いを感じました。日本と台湾のお正月の一番違うところはと言うと、台湾は日本みたいに静かな感じではなく、いつも爆竹などを鳴らしたりして、うるさいくらい賑やかな雰囲気であって、困まれているところではしょうか。

もう一つ、日本人のマナーとして、ご飯などをご馳走になった際や何か贈り物を貰った後、その場でお礼を言って、さらに後で改めて礼状やメールを送ったり、また、その人に次に会った際にも改めてお礼を言ったり、何度も感謝を表すのが礼儀のようです。一方台湾人は、挨拶は通常しますが、後日改めてお礼をあまり言わないのです。これは、次に催促している風に採られるからだそうです。私自身もお礼を言うのは二回で、三回以上は減多にないです。こんなことなども、クラブの例会に出席をしたり、ロータリー活動に参加したりしながらパパに教わり勉強になりました。こうして、文化の違いを体験しながら、充実した生活を送ることができ、一生の思い出になると思います。



## 近藤副理事長特別賞 感謝の気持ち

大阪大学  
法学研究科  
**陳瑋文 (台湾)**  
世話クラブ: 大阪大手前 RC

私は日本への留学の前には、友人がそばにいてくれたり、困難の時に助けてくれたりするのは当たり前のことだと思っていました。また、両親が働いて、私たちの生活を支えてきたことも当然だと思っていました。しかし、日本へ留学してからこのような思いは、だんだんと覆ってきました。

当初、日本へ来たきっかけは、台湾の大学に推薦されたことで、姉妹学校の兵庫教育大学で一年間勉強しました。しかし初めての大学で初めての交換留学生ということで一人だけの台湾人留学生の私は、日本語があまりできないうえに友人がいないので、とても心細かったです。その頃、ある一人の留学生が一人ぼっちになった私の状況を見て、「大丈夫!」「ご飯をちゃんと食べてる?」と話しかけてくれたり、時々ご飯を作ってくれたり、私の心を暖めてくれました。その友人のおかげで日本の生活に一つ一つ慣れてゆくことができました。それからは友達もたくさんできて、楽しく過ごすようになりました。そして友達がそばにいてくれて助けてくれることは、当たり前ではなくなり感謝すべきだと分かるようになりました。

日本への留学で両親に少しでも家計への負担をかけないように、私は少しでも財政的な負担を軽減するため、コンビニのアルバイトを始めました。1時間ほどかかる街灯のない山道を自転車で通い、夜10時まで勤務した翌朝の5時からまた10時間働くというスケジュールの日もありました。そのとき父のことを思い出しました。小さい頃、夜に父は会社に行って、私がよく眠っているときに仕事をしていました。そして翌日の朝、私が学校に行くとき、父は帰ってきたということが頻りにありました。父は家族のために文句を言わずに

働いて、私たちを支えてくれました。自分が実際にアルバイトをするようになってから、両親の大変さを少し理解できるようになりました。両親に子供として育ててもらおうということは、当然ではなく感謝すべきことなのです。

日本での留学中に私はボランティアの授業をしました。当時、田舎の小、中学校に行くと、私は先生になり、子供たちに台湾の文化を教えました。授業が終わった後、子供たちは「先生ありがとう!」「また教えてね!」と言ってくれました。また、クラス全員から花束と感謝の言葉のカードをもらってとても感動しました。ボランティアの経験を通じ、人を支える大切さをより理解できるようになり、さらにこのプロセスの中で、自分だけでなく相手から感動や喜びをもらえることを実感して、自分も幸せになれるということで相手に感謝しなければと思いました。

最後に、家族や友達など、私が日本に来て以来、助けてもらったたくさんの人たちに感謝の気持ちを込めて『ありがとう』を申し上げます。周りの皆さんがいるからこそ、現在の私は幸せです。

## ロータリー米山学友会(関西)2012-2013 年度会計報告

### ロータリー米山奨学生学友会 (関西)

#### 2012 年度会計収支決算書

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	794,787		運営費	163,995	
特別補助金	530,000	2660 地区、 国際ロータリー	事務用品費	2,116	
会報補助金	100,000	米山記念奨学会	交通費	48,460	
総会収入	399,000		会報作成費	253,470	
総会寄付金	137,000		総会費用	660,099	
総会補助金	69,000	@3,000 × 23	懇親会費用	979,860	
懇親会補助金	742,200		通信費	20,004	
懇親会補助金	48,000	@3,000 × 16	雑費	1,830	
利息収入	140		次年度への繰越金	963,293	銀行:769,691 現金:193,602
仮受金	273,000	2013 年度総会入金	総計	3,093,127	
総計	3,093,127				

自 2012 年 7 月 1 日  
至 2013 年 6 月 30 日

以上ご報告申し上げます。  
2013 年 7 月 7 日  
会計 東林華

### ロータリー米山奨学生学友会 (関西)

#### 2013 年度会計予算 (案)

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	963,293		運営費	200,000	
総会補助金	180,000	米山記念奨学会 @3,000 × 60	事務用品費	5,000	
会報補助金	100,000	米山記念奨学会	交通費	20,000	
懇親会補助金	90,000	米山記念奨学会 @3,000 × 30	会報作成費	250,000	
総会収入	700,000		総会費用	900,000	
懇親会収入	800,000		懇親会費用	1,000,000	
利息収入	200		通信費	40,000	
総計	2,833,493		雑費	10,000	
			次年度への繰越金	408,493	
			総計	2,833,493	

自 2013 年 7 月 1 日  
至 2014 年 6 月 30 日

以上ご報告申し上げます。  
2013 年 7 月 7 日  
会計 東林華

## ロータリー米山学友会(関西)2013 年度の活動報告

2013 年度 (2013-2014) 米山奨学生学友会の年間スケジュールです。

日付	行事内容	場所
2013/4/10	2013 年度米山新奨学生オリエンテーション	ヴィアール大阪
2013/5/26	2012 年度米山学友会第 3 回役員会	第 2660 地区ガバナー事務所
2013/7/7	2013 年度米山総会及新規奨学生歓迎会	大阪国際交流センター
2013/7-8 月	2013 年度米山学友会第 1 回役員会	第 2660 地区ガバナー事務所
2013/8/31	夏懇親会：一泊二日	福井大自然を満喫 耐力/体力大会
2013/9/28	企業見学会	京都伝統工芸産業支援センター
2013/10/6	地区奨学金委員会主催 米山奨学生レクリエーション大会	宝塚劇場
2013/11/2	第 2 回 国際ロータリー第 2660 地区 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト応援参加	OMM ビル会議室
2013/12/7	(第 11 回ロータリー X'mas in USJ) 大阪エバ・カトリック・グループ主催。 施設の児童を招待し、学友会は一日親として：応援予定。	ユニバーサルスタ・ジオ
2013/12/7	2013 年度年末忘年会	ネパール創作料理店シュレスタ
2014/1/19	米山奨学会選考試験の応援参加	大阪日本語教育センター
2014/1-2 月	2013 年米山学友会第 2 回役員会	第 2660 地区ガバナー事務所
2014/2/21-22	R I 2660 地区 2012 ~ 2013 年度地区大会	国際会議場
2014/3/2	地区奨学金委員会主催の米山記念奨学生終了式、歓送会	ハイアットリジェンシー大阪
2014/3/15	2013 - 2014 年度 米山感謝祭	KKR 大阪ホテル

# ネパール米山奨学生学友会創立記念



Ho Yutsui 手記

## ◆ネパール紀行◆

関西チーム一行 6 名：

大阪大淀 RC 地区米山奨学委員会委員 吉田悦治

大阪東ちゃやまち RC 会長 大澤一雅

関西米山学友会会長 HoYutsui ,

幹事長 Tran Thi thu ha,

国際交流役員 Manoharu Lal Shrestha

台湾米山学友会 Chen I-chien

### ◆ 10月17日～10月22日

ネパール、私にとって、未知な国です。幸いに今回ネパール米山学友会創立記念の式典に参加の目的があり、不安も心配もないまま、むしろ興奮と喜びを抱いて出発しました。

予算の問題もあって7日間長時間の旅、南廻りで広州経由。広州で台湾学友と合流して、2時間待ちで無事にカトマンズへのフライトに乗り換えすることができました。夜中に到着して、そのままホテルへ、カトマンズの気温約25度前後、時差:3時間15分、(初めて出合ったこの15分の時間差、中途半端の計算。でも出発前ネパールの学友に裏ワザを教えて貰いましたので、時計調整しなくて済む。しかし朝寝ぼけている時はつらい、頭を斜めにして時計を見ないと～間違いやすい。粒子を12時(3時が12時)で見ると丁度ネパールの時間になる。)

翌日夕方 yala RC の合同例会に参加。例会までの時間はカトマンズ盆地を見学。ボダナ(Boudhanath)：ネパール最大の仏塔がある地区を散策。古くからチベット仏教徒の主要な巡礼地区だそうです。周囲にチベットの骨董品やお土産売りの店が並んで、巡礼者は時計廻り方向に回ることが決まりごと。ボダナートは自然の「気」の満ちた場所に建てられた聖地だといわれています。周りにチベット僧侶たちがお守りを売ったりしていました。一緒に写真撮影、僧侶からご経を唱えながら『お守り』を頂きました！

午後地区ガバナー訪問 RI3292 合同例会に参加。(Rotary club of Yala & Rotary club of Patan

Durbar Square & Rotary club of Tripureswor ) 私達の参加もあって約50名の出席参加で、いつもネパール族語の例会も英語例会に変更。初ネパールのRC例会参加で勝手がわからなくて四苦八苦していました。例会後の懇親会で第3292地区(ネパール、ブータン)地区ガバナー Dilendra Raj Shrestha と親しくお話しができ、最高に盛り上がり、その勢いでガバナーの招待を受け自宅へ、遅くまで宴会が続きました。

三日目ネパール学友会設立総会、お茶会開始の午後までは相変わらずカトマンズの市内を観光。車で町の西へちょっと丘の上にある最古の仏教寺院スワヤンブナート(Swayambhunath)へ展望台からはカトマンズの町が一望できる寺院です。寺院と離れ、パタン『別名美の都、世界遺産』地区に入り、観光客は有料の町。まずゴールデン・templ (Golden Temple)、中庭は革製品禁止・選ばれた世話役は小さい僧侶が鎮座し、願い事叶いそうな気がして、思わず祈願しました。

いよいよお茶会の時間なので、ホテルに戻って綺麗にお洒落して会場へ出発、10分で着くと聞きき、余裕を見てホテルから出発し！ガタガタガタ・・・なんと路の悪さ、嵐でもあった船に乗っているみたい・・・ガタガタガタ・・・着かない・着かない・・・やっと会場に到着。全員酔って気分が悪く、もうすでに20分の遅刻です。この国ではこれが普通見たい～～でもお茶会の作法披露はもう既に終わっていました。本当に残念でした。着物で出迎えてくれた東京チームを見てどこかでほっとする気がしました。

海外5番目となる米山学友会がネパールで設立総会開始。カトマンズ市内で行われた創立総会には、ネパール出身の米山学友15人、日本からのロータリアンや関西米山学友会役員ら11人のほか、在ネパール日本国大使館一等書記官の浜田清彦氏など来賓を含む約40人が集まりました。初代会長にはスレス・ダス・シュレスタさん(1994-96/大阪阪南RC、現在カトマンズRC会員)、副会長にはビジャヤ・パントさん(1995-97/広島東南RC)、ほか5人の役員が選任されました。

初対面とは思わないぐらいネパール学友と楽しく懇談がつづき、共通の話題である日本について、お互いにお話しが終わらないぐらい楽しい総会でした。今後日本国内米山学友会と協力し合い、ロータリーの精神である世界平和に貢献できることを目標として活動していくネパール学友会の皆さまでした。

四日目、総会が終わって、ほっとした全員がこれからしっかりと遊ぼうと思っています。今日も天気良く、手早くホテルをチェックアウトして、チトワン国立公園へ向けて出発、約200キロ5～6時間掛かる距離。関西チーム6名とガイド1名、現地手配者1名、運転手1名計9名の珍道中の旅開始。

カトマンズ盆地から山を越え国道向かって走る、沿道段々畑、水田、険しい山、素晴らしい景色と気分良く眺めたいところですが、道路が悪い～悪い～しかも悪質な長距離バスの追い越し、クラクション・・・笑うしかなかった・・・スピードがでないことが幸いで危ない場面でも、安全に交わすことができる。

昼：ナラヤンガード(Narayanghaat)でランチ、(ポカラー と ルンビニの町への分かれ道の交差点で人と物資と交通が多く出合う地点です。) 入ったレストランはwifiがあるため、全員一斉に携帯電話

## ネパール紀行

を打ち始めました。文明社会と離れて数日間電話もメールもできなかった、寂しいよりもお互いに会話が沢山できました。一変に静かになった一時でした。

走り続けて、風景も変わってタライ平原、長閑な田園風景、山羊、牛を庭で飼っています。(途中で火葬場も出あった、亡くなった人を天界へ、思わずカメラ・・・でも近くはいきたくない) 午後16時すぎ～やっと今晚の宿 Gochada 村のマキモトゲストハウス着きました。思ったより雰囲気の良い3階建ての建物、夜は満天な星が見られるそうです。

マキモトゲストハウスの廻りは一面平野、隣接の建物は皆さんの寄付で建てた24時間診療所、看護師2名常時に滞在、簡単な薬と分娩室、病室、2階に続く階段は建設途中(寄付待ち)なので、屋根がなく雨の日は雨漏れして状態。夕食まで時間がまだあるので、チトワン国立公園横のペンション予定地に夕日を見にいき、運が良かったら動物も見られるそうです。この一日が長いな～と思いながら～自然の雄大さに感動～胸を熱くして眺めていました。夜は結局お月さまが明るすぎたので、満天の星が見られず残念でした。満天の星空は次回にお預け～ゲストハウスにお湯がないので全員水シャワーを浴びて、就寝。

五日目 6時起き～朝霧がかかって、国立公園へ出発、早朝の自然保護区内に象さんに載って動物をウォッチング何種類看つけるのでしょうか?期待に期待・・・テンションも最高です。自然保護区、ジャングル中、草、木を避け抜ける象の鼻の素晴らしさ、と大きな背中の安定感、時たまお茶目で遊んでいる象。人生初の体験で楽しかったです。早朝の体験を終え、今回 Gochada 村に来る目的でもあるメインイベントに出発。長年「子供育つ会」というボランティア団体が支援してきた小、中、学校へ訪問。

S arashoti Higher Secondary School には1000名近くの生徒が在学中。2棟2階建ての校舎で交替で勉強しているそうです。今回日本から持ってきた1000本<sup>ル</sup>ペンと後日現地手配予定のノートを寄贈。

毎年子供達に支援している大澤さんのご協力で私達がこの寄付活動に参加することができ、感謝しています。一時的な支援ではなく、継続することこそ意味がある。金額よりも続けることの難しさに改めて実感しています。子ども達の笑顔と別れ、カトマンズに向かって帰ります。夜はネパールの学友家族と食事会なので、帰路も楽しみでいっぱい～道が悪くても、心の準備ができていたので、慣れるもんだなあ～と自己満足。途中で日本の方が作ったボランティアセンター(女子学生が卒業まで3ヶ月間無料の訓練センター)を見学。カトマンズ市内を離れると現実が見え、貧困の差、教育の差、この国にとって何か一番必要とするか?沿路に見えるのはレンガ工場、砕石工場、採石場、人が山積みのバス、凸凹の国道でも唯一変わらないのは 人々の笑顔～!!!

カドマンズに戻り、21年間も滞在している米山学友の自宅へ訪問。家族全員が日本語がわかるので日本語しか話せない私達にとって、気楽な食事会でした。和気あいあい美味しい本場のネパール家庭料理をたくさん頂きました。現地に友達がいることでいいな～と思い、米山学友の世界は広いな～とあらためて

## ネパール紀行

実感しました。マノハルさんのご家族に感謝、ありがとうございました!

六日目、早朝4時半起き、ナガルコット(Nagarkot)へ日の出とヒマラヤ山脈を見に出発。標高約2100m車で急カーブの細い山道～登ること約40分、廻りが霏かかっている、霧も～日の出は無理かも～少しの希望を抱きながら、目的のクラブヒマラヤ・ナガルコットホテル展望台に到着。でも天候が悪いため何も見えない～でも、もしかしたら風が吹き、晴れてくるかも～と期待しながらヒマラヤ山脈の雄大さが見えるように～と次の目的地に移動、でも、でも、良くなろうとしない天気、雲海すらないぐらい～帰ろうと～下山の途中、急に車がストップ～ 見えました!慌てて、車から降りて撮影。ちょっと遠いけれどネパールでヒマラヤ山脈の姿が見えたことに感動!少しの満足さで次へ古都バクタプル(Bhaktapur)へ移動。バクタプルはカトマンズ盆地で3番目に大きな町。レンガ造りの建物がびっしりと並び、町の人々の生活がそのまま目の前にあり、路地が迷路のように入り込んでいる、一旦入り込むときっと迷子なるでしょう。続きトウマデー広場 : 18世紀に建てられたニャタポラ寺院があり、5層の屋根を持ち、高さ約30m、下からも5層になっている石段があって、伝説上の戦士、ゾウ、獅子、グリーンフィン、女神の石像が守護神として、1対ずつ置かれており、それぞれ下の段より10倍の力を持つとされています。タイムスリープしたような観光を終了して、ホテルへ昨日創立したネパール米山学友会会長と副会長、と再会し。私たちが帰る前一緒に楽しい鍋料理を満喫しました。

4日間お世話になったホテルとはお別れです。初日ホテルのカジノ体験を紹介するのを忘れました。ちょっと異様な雰囲気です。ネパール人は入れないので、外国人のみというよりもインド系の人ばかりでした。食事、飲み物は全部無料。カジノの勝ち負け結果:勝ちました(意外)。

では最後の行事 -Rotary Club of Bagmati 10周年式典に参加すること。満足に買物していなかったタメル地区へ式典開始までの時間を利用してもう一回走りまわりました。現地のスーパーマーケットなり、貴金属購入なり、慌ただしくぎりぎりいっぱい時間をつかいました。漸く18時開始の10周年式典に時間通り開会場所ヒマラヤホテルに到着!受付から開会まで勿論わからないまま～開始!スタートは6時30分でした。状況も言葉もわからない雰囲気の中で参加、10周年なので、非常に盛大、家族も子供一緒に参加していました。Rotary Club of Bagmati 10周年式典は延々と続き、空港へ行かなければならない時間まで参加し、別れは少し寂しい気もして、第3292地区 Shrestha ガバナーとは2回も会いまして、親しい仲間になったことに感謝、最後もわざわざ私達を見送りに出口まで来ていただきました。

ネパール米山学友会の創立がなければ、私達はこの出会いがなかったでしょう!初めての国、たくさん人との出会い、ここの空気、食事、物事、決して忘れることができない!この国これからのすべきこと、課題も山積にあって誰かが解決するだろうと思うのですが、私達は旅人でなく、ロータリーとの繋がりがいます、米山学友の知り合いがいます。微力ながら、これから皆さんと一緒に継続できるような支援を考えていきたいと思えます。そして国際親善、平和であるような繋がりを持ち続けたい気持ちでいっぱいです。

# 2013-14 関西米山学友会行事写真



2013/04/10 2013年度奨学生オリエンテーション



2013/10/14 宝塚観劇



2013/07/07 2013年度総会



2013/11/02 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト



2013/08/31 夏懇親会



2013/12/07 忘年会



2014/09/28 企業見学会



2014/02/21 地区大会

# 2013-14 関西米山学友会行事写真



2014/03/02 米山奨学生終了式



2013/10/17 ネパール米山学友会



2014/03/15 米山感謝祭



2013/11/05 韓国米山学友会



2013/12/14 台湾米山学友会



2014/04/06 タイ米山学友会

# 2014 年度会報募集要項・2013 年度会報編集後記

## 募集要項

2660 地区米山学友会関西地区奨学生の皆様、

本学友会の活動をまとめる会報第 31 号の入稿についてお願いいたします。

入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、「来日して自分の国(ふるさと)と違うなと思ったこと」 どちらかを選んでください。
字数と枚数	約 1000 字
内容	基本的には自由(エッセー・感想文なども可)です。 ※研究レポートを提出することは、お控ください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2014 年 12 月 30 日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿は PC メールでの入稿をお願いします。 ※メールアドレス:yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1. テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。 2. テーマの下に、所属大学および専攻・名前・国籍、 と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例:〇〇〇〇大学〇〇専攻 大阪花子(日本)、世話クラブ:〇〇 RC) 3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4. 提出期限を厳守してください。 5. 作文を提出する際、顔写真(JPEG)も一緒に送ってください。 できない場合、上記のメールアドレスまでご連絡ください。

## 編集後記

今年度の会報を編集させていただき誠にありがとうございます。僕から見ると、やはり学友にとっては、この一年の学友生活を代表的な形に残せる物はこの会報だと思います。

編集する際に、先輩達や会長からいろんなデータを頂き、改めてこの一年間を振り返ることができました。残念ながら僕はすべての行事に参加することができなかったんですが、幸いこの会報があって、いろいろ分かるようになりました。

そして去年を振り返れば、僕はまだ奨学生だった頃、気持ちは今と全然違っていて、そのとき僕は去年度の会報を頂いたとき、とても嬉しかったです！なぜなら、この年に一回しかない、奨学生生活の思い出を記録してくれた大切な宝物なのです。

そして、今年は会報の編集を担当させていただき、とても光栄と存じた上、是非今年度の奨学生の後輩達や学友の皆さんにより喜んでもらえるため、精一杯頑張って会報を編集させていただきます。

最後になりますが、ロータリアン各位、学友各位、今年度大変お世話になりました。来年も引き続き、ご指導ご鞭撻のほどをねがいします。本会も、様々なルートを通じて、活発な発信を続けたいと思います。

# 2013 年度関西米山奨学会役員からの一言

役担当	氏名	役員からの一言
会長	何 玉翠(ホ ユツエイ)	「心のふれ合い」皆さんとは米山の世界で繋がっています。一緒に大事にしていきましょう！
副会長	潘 振興(ハンシンコウ)	皆さんがいるこそ、米山学友会が成り立っています。もっと前に出て来ましょう！
幹事長	トラン・トゥ・ハー・ティ	「恩返し」を「行動」に。。米山の輪を広げ、皆で幸せになりましょう。
顧問	林 錫璋(リンシャクショウ)	互いの文化を尊重し、多国籍共生社会を築きあげ、世界平和に貢献すること。
会計監査	荘園 福松(ソウエン フクマツ)	長年会計監査の立場にいながら一言「感謝」のみ、今後若者に努力してもらいましょう！
会計	東 林華(アズマ リンカ)	米山学友会は世界的規模の異文化の集合体です。互いに違いを認め合い、力を合わせアットホームな学友会を築きませんか。
役員	單 雅婷(タン ヤーティン)	これから役員として米山の皆さんと一緒に手を繋ぎ、前に進みましょう。
役員	金 恩貞(キム ウンジョン)	米山学友会でのご縁を大事にしなが、お互いに支え合って行きましょう!!
役員	マノハル・ シュレスタ	学友会活動中、ロータリー精神は常に心の中に！
役員	常 焯(ジョウ イ)	あなたがひとこと声をかけたら、米山の輪が広がります。
役員	黄 詠翔(コウ エイショウ)	もっとたくさんのいい思い出を作っていきましょう！
役員	李 君(リ グン)	「三人行れば必ず我が師有り」感謝の気持ちで皆と一緒に前向き
役員	劉 春倩(リュウシュンセン)	米山奨学生の日本での生活をより一層素晴らしい経験にできるよう自己研鑽に励みましょう！
2012-2013 会長	張 朔源(チョウ サクゲン)	いつまでも、感謝の心を忘れなくて、奉仕の精神でがんばりましょう。
2008-2012 会長	朴 日(ボクニチ)	繋がりの輪を広げましょう、米山と世界の輪を！
2004-2008 会長	林 小微(リンシャオウエー)	「米山のご縁」から「異文化の相互理解」へそして「世界平和の輪」へと一緒に頑張りましょう。
2000-2004 会長	杉本麗華(スギモト レイカ)	米山学友会はただの同窓会ではなく、日本から世界へと羽ばたく、ロータリー精神を有する元留学生の会であります！
監査役	李 麗諭(リ レイユ)	積極的に若い皆様のパワーをいただきに参ります。では、またお会いすることを楽しみにしています！
役員	田 由甲(デン ユウコウ)	しばらく休ませていただきますが、米山は素晴らしい団体だと思います。
役員	馬 桂霞(マ ケイシャ)	金の切れ目が緑の切れ目」とならないように、米山奨学生卒業後も恩返しの気持ちを胸に積極的にロータリー活動に参加しましょう。
役員	金 美蘭(キム ミラン)	全ては人との繋がりで生かされている。どんな状況下でも周りの人々の温かさや優しさにふれ、いつもありがとうと心から思う。」
役員	田 彬彬(デン ヒンビン)	国や言語の壁を超えた米山学友会では、各国から来た皆の力を合わせて、一つ一つの思いを実現してきた。世界に貢献することを夢にしているあなたもきっとここで新たな自分を見つける。
役員	イサエバ・タチアナ・イバノブナ	感謝の気持ちを忘れずに米山を盛り上げましょう！

## 編集チーム

編集：黄 詠翔(学友・2012 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；大阪鶴見 RC)

校正：何 玉翠(学友・1987 - 1989 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；奈良 RC)

総括：何 玉翠(学友・1987 - 1989 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；奈良 RC)

表紙：黄 詠翔(学友・2012 年度米山奨学金受給者・世話クラブ；大阪鶴見 RC)

**30 YONEYAMA  
KANSAI**



**ROTARY YONEYAMA SCHOLARSHIP  
ALUMNI ASSOCIATION 30 (2013-2014)**